

研究成果の紹介

1 紫黒米品種「むらさきの舞」の収穫適期の判定

ねらいと成果

「むらさきの舞」は、インドネシア・バリ島の「紫黒稲」を母に「イシカリ」を父に交配し、1998年に種苗登録に出願した色素^{うろち}梗米である。当初は、赤い酒を醸造する目的で育成されたが、玄米果皮に含まれるアントシアニンやミネラル・ビタミン含量が一般米よりも高いことから、食用米としても、また、加工食品の原材料としても注目を集めている。「むらさきの舞」は一般の水稲に比べ成熟期の判定が難しいが、緑色が残り、黒緑色を呈する未熟^{うろち}の割合が10%程度になる時期が、収穫適期であった。

内容

- ① 主な品種特性は、熟期：中生の中、草型：穂重型、出穂期：8月26日、成熟期：10月10日（生産力検定調査—移植期：6月15日）
- ② 同一株の中での出穂にばらつきを生じやすく、成熟期に幅があり、また、出穂後日数が進むにつれて、玄米の着色が進むため、刈り取り適期の判定が難しかった。表に示したとおり、玄米粒色の

L値が最も低くなったのは、出穂38日後で、この時点での未熟^{うろち}の割合は約40%で、未熟^{うろち}のうち黒緑色の^{うろち}が約11%であった。一般の稲の収穫適期は、青味^{うろち}率は10～15%であるが、「むらさきの舞」では、未熟^{うろち}が40%以下、同時に、黒緑色の未熟^{うろち}率が10%程度の時期が収穫適期と考えられる。

- ③ 色素量は、栽植密度や肥料の種類・量による差異は認められなかった。

普及上の注意事項

- ① 周辺のは場への侵入・交雑等を防止するため、配置・栽培管理に充分留意する。
- ② 一般米と混ざらないように、収穫・乾燥・調製の際に、機械などの清掃に留意する。
- ③ 落ちばえによる混種を防ぐため、同一は場での連作が望ましい。
- ④ 草丈は高く、稈や枝梗がもろいため、挫折倒伏しやすいので、多肥栽培や刈り遅れを避ける。

三好 昭宏（農業技セ・作物部）

表 「むらさきの舞」の収穫時期と成熟^{うろち}率および玄米粒色との関係

収穫時期 (出穂後日数)	籾の 水分 %	籾の ^{うろち} 色			玄米の粒色			千粒 重 g
		未熟 ^{うろち} (黒色) %	(黒緑色) %	成熟 ^{うろち} (黄土色) %	L 値	a 値	b 値	
9月14日(+25日)	25.7	30.0	54.9	15.1	18.4ab	2.5a	1.5b	23.9
9月20日(+31日)	20.9	49.0	19.9	31.1	19.0a	2.7a	2.5a	24.3
9月27日(+38日)	16.5	28.6	10.7	60.7	17.2c	1.8b	1.1b	24.7
10月4日(+45日)	15.0	5.7	2.3	91.9	17.6bc	2.0b	1.4b	24.9

注)玄米粒色の各測定値(色差計)の右側のアルファベットは異なる記号間では5%水準で有意差があることを示す。